

2 1. 庄内南小学校PTAへの「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 29 年（2017 年）2 月 24 日（金）16 時～

○場 所：庄内南小学校

質問・意見等	豊中市からの回答
資料によると、低学年の遊び場は用意されているようだが、高学年の遊び場はどうなるのか。	遊び場としましては、基本的には運動場を使用することを考えていますが、体育館を利用することも考えられます。休み時間は、中学生よりも小学生の方がよく外で遊ぶと思われませんが、低学年は体格が小さいため、低学年用の遊び場を運動場とは別に確保したいと考えています。ただ、授業時間は小学校 45 分、中学校 50 分と異なり、時程も完全には揃わないため、休み時間に中学生と一緒に過ごす可能性は低くなります。先進事例では、節目となる時限目だけ時程を揃える等の例がありますが、休み時間の時間帯等につきましては、計画が固まった後、教職員中心に、先進事例を参考にして、検討していくものであると考えています。
約 1000 人規模の学校になると説明していたが、人数のわりに運動場が狭いと感じるが、どうか。	法律で定められている運動場面積の基準を、今回の北校の規模であてはめてみますと、約 12,000 m ² 必要ですが、実態として、1 年生から 9 年生までの全員が一度に運動場で遊ぶ機会はほとんど無く、体育の授業は運動場、体育館など場所を分け合って使用することを想定しています。放課後の部活動に関しても、例えば、運動場を使わず、校舎内、体育館等で基礎的なトレーニングをする等、いろいろな工夫が可能です。今後運用面の検討も進めていきたいと考えています。
今後の変動はあるかと思うが、北校、南校ともに、一学年何クラスずつになるのか。	平成 33 年度（2021 年）の推計値をもとにシミュレーションすると、北校、南校ともに、ほぼ同規模の児童生徒数になり、1 年生から 9 年生までの合計で約 1,000 人、通常学級で各学年 3～4 学級となります。
2 月の時点では、北校、南校ともに同じタイミングで整備していくと説明していたが、今回の説明では南校は 2 年ずれることになっているが、なぜ 2 年ずれることになったのか。理由は何か。	教育委員会といたしましては、北校、南校とも同時期に整備したいと考えていましたが、南校は、千成小学校に隣接するせんなりこども園が、どのようになるのか、決まっていないこと、また、一部の地域では反対のご意見が多いことから、南校に関しては、時間をかけて検討する必要があると考えました。新しい学校も、これまでと同様、保護者、地域の皆様に応援していただける学校にしたいと考えています。スケジュールはあくまで案であり、変動する可能性があります。
せんなりこども園がどうなるか決まらないと、スケジュールがもっとずれていくという可能性があるのではないか。スケジュールはいつ確定するのか。	豊中市では、平成 28 年（2016 年）9 月に「公立こども園の適正配置に向けた基本方針」を策定しました。今後、この基本方針に基づき、適正配置の全体案を平成 29 年度（2017 年度）に作成する予定です。とりわけ、南部地域については、「庄内

	地域における『魅力ある学校』づくり構想」や「（仮称）南部コラボセンター基本構想」等、南部地域における取り組みとの整合性を図りながら、検討を進める予定です。南校のスケジュールは、この公立こども園の適正配置計画が定まるなど、不確定要素が固まった後に、判断することになると考えています。
今回の学校再編に関わって、通う学校についての保護者の意向を聞いてもらえるのか。	学校教育法では、市町村の教育委員会は、設置する小学校、中学校が２校以上ある場合、就学予定者が、就学すべき小学校または中学校を指定するよう、定められています。今回の学校再編では、通常の手続きと同様に、就学する学校を指定することになりますが、指定校変更に係る配慮事項など具体的な検討には至っていません。構想が固まった後、個別事情への対応等について検討したいと考えています。
小中一貫教育のデメリットは何か。	資料としてお配りした「魅力ある学校づくり通信２号」には、小中一貫教育を実施している学校の管理職が感じている成果と課題を載せています。そこでは、主に教職員側の課題、例えば、会議の時間が増加する等が掲載されています。また、施設一体型小中一貫校を実践している学校の課題としてよく言われることは、小学校では４５分授業、中学校では５０分授業のため時程がそろいにくく、中学生の授業中や試験中に小学生の休み時間が重なり、騒がしくなってしまう、小学校５、６年生は、小学校では学校のリーダーの役割を担いますが、施設一体型小中一貫校だと７年生や９年生も一緒に学校生活を送るため、リーダーとしての役割を担いにくく、中だるみするなどです。しかし、施設一体型小中一貫校の事例は年々増えており、時程や行事のあり方、施設整備の工夫等について、新しい学校の参考にしたいと考えています。
制服はどうなるのか。	現時点では、制服については何も決まっていますが、計画が定まった後、教職員、保護者、地域の方々に参加していただく開校準備組織で話し合っていただくものと考えています。施設一体型小中一貫校の先進事例では、制服を７年生からではなく、５年生や、開校のタイミングで１年生から導入したというケースもあります。
どのタイミングでこの構想が進むにしても、第六中学校から第十中学校に行く子どもが出てくる。仮開校と説明しているが、第十中学校の敷地内に第六中学校のためのフシハフを建てて、過ごさせるという方法もあるのではないか。中学校での評価面が心配である。	中学校での評価などは、当然配慮すべき内容であると考えています。北校及び（仮称）南部コラボセンターを庄内小学校と第六中学校の敷地に整備するため、工事期間中、どうしても影響をうける子ども達が出てきてしまいます。子ども達にとって悪い影響が出ないように、しっかりと準備をしたいと考えています。
今の１年生は庄内南小学校から第七中学校に通い、そ	現在のスケジュール案では、工事のタイミングで、一学年ず

の後千成小学校に建つ新校舎に行くことになる。中学の時、第六中学校から第十中学校に行く子もいる。それであれば、庄内南小学校の通学区域を、今の4年生と5年生が中学校に進学する段階で、第七中学校へ通学区域を変更すれば、第六中学校に行き、第十中学校に通うことがなくなるのではないか。先に第七中学校に通学区域の変更をできないか。	つ順番に変更することとしております。今いただきましたご意見は、持ち帰らせていただきます。ただ、庄内南小学校の通学区域はもちろんですが、今回は小学校6校、中学校3校の再編に関わっての変更になりますので、それぞれのタイミングでの学校規模のバランス等も考える必要があります。
自治会向けに、魅力ある学校づくり通信を送ってきているが、それだけでは街全体に行き渡らないと思う。説明会も今回はPTAが中心だが、地域と保護者では論点が違ってくるので考えて欲しい。	ご意見として持ち帰らせていただきます。説明会の持ち方や情報の発信方法については、今後も検討していきたいと考えています。